

患者さんの中には、入院した途端に体調が悪くなったり、薬が効きすぎてしまったりする方がいます。

例えば糖尿病の患者さんで、外来受診では血糖コントロールが悪く高血糖が続いていたのに、入院すると低血糖気味になるような方。これは普段の食事と病院で提供される食事による差が大きいと思いますが、薬の飲み方が原因の場合もあります。

糖尿病の薬には糖の吸収を穏やかにするために、食事の直前に服用しなければ効果が出ないものがあります。飲み忘れないようにと食後に他の薬と一緒に服用すると、効果は発揮されません。指示されたタイム

ちよつと得する
クスリ
の
知
識

<110>

忘れずに正しく服用を

ングで服用することは、とても大切なのです。

飲み忘れることなくしっかり服用することはもっと重要です。飲み忘れが多い方は、薬が十分に効いていないため、症状が悪くなりがちです。しかしながら医師は、患者さんが正しく服用していることを前提に診察しますので、「まだ薬の効き目が足りないから増量しよう」とか「別の薬も足してみよう」などと、多くの薬が処方されてしまいます。そのような患者さんが入院する

と、入院中は処方薬をきちんと服用することで効果がすぐに現れ、中には過剰に効いてしまうこともあるのです。

もし医師に言いにくければ、薬剤師に飲み忘れがあったことを正直に話してください。飲み忘れを減らすアドバイスができますし、余分な薬を処方されることもありません。薬は用法用量を守って、正しく服用することを心掛けてください。

（牧野 和也・県病院薬剤師会理事）

<毎月第4火曜日に掲載>